目から鱗 MANGA

DEATH NOTE

集英社
原作：大場つぐみ
漫画：小畑健

デスノート

"The human whose name is written in this note shall die."

名前を書くだけで人を殺せるノート、「DEATH NOTE」。１冊のノートが全世界の未来を賭けた頭脳戦を引き起こす。

本作のテーマの１つは「正義と悪」だ。作中では２人の天才による争いが繰り広げられるが、これは「正義VS悪」の争いではない。主人公の天才高校生「夜神月（やがみライト）」は、絶対の正義を体現できない司法に対し不信感を持つ青年である。そこで「DEATH NOTE」を使い、悪者には死を、という至極明確な法で世界を正そうとする。対し夜神月の裁きを凶悪犯罪ととらえ、彼の確保のために手段を選ばない天才探偵「Ｌ」。この両者の対立が本作の争いの構図であるが、ここでは両者共に自らが持つ「正しい世界」の信念のために戦っている。つまり、「正義VS正義」の争いが起こっているのである。善悪の描き分けがなく、その判断が読者に委ねられる形となっている。

また、物語の進行に伴い夜神月は生命を軽んじ、あまりに安易に殺人を繰り返していく。しかし歪んだ現代社会という背景のもとでは、彼の裁きが時に眩しく映るのも事実。「DEATH NOTE」による殺人は、正義の裁きか、自己満足の犯罪か。この問いもまた作中では結論付けられておらず、判断は読者に託されている。

真の正義とは？　真の悪とは？　権威に流され思考停止に陥ってしまいがちな私達に、究極の判断を迫ってくる。

◀小畑健の描く豪壮なイラストも本作の魅力の一つだ。

本作のもう１つのテーマは「死」だ。

私達が各種メディアに見る死。それは情報として処理するために要素のみを抽出した単なる「データ」であり、死が持つ喪失感はそこにはない。一方で私達は、フィクションの中に死の現場を目撃する。矛盾しているが、偽物（フィクション）の死は時に本物のそれ以上に私達の心に訴えかけてくる。それは偽物（フィクション）の死が必要以上に劇的に描かれていて、私達がそこに「ドラマ」を観るからだ。しかし、実際の死の現場にドラマがあることは稀だ。

本作における「死」は「データ」でも「ドラマ」でもない。濃密なストーリー展開の中で、死を淡白に描くという作風。これがフィクションという枠を越えて、肉薄した死の喪失感が滲み出ることを可能にしている。本作における「死」は、限りなく「リアル」なのだ。

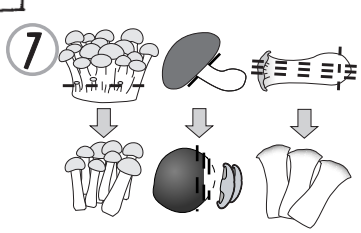
「悪」や「死」という現実をありのまま見せつけてくる１冊のノートを巡る奇妙な物語。差し出された掌を、私達は制して遠ざけることはできない。（taken）

かんたんCooking　きのこの炊き込みご飯

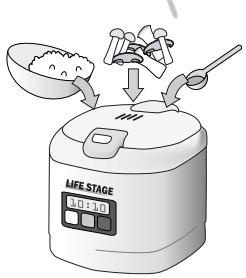
秋の味覚であるきのこだけを具に使ったシンプルな炊き込みご飯です。旬の味を楽しみましょう。　（ごっつ）

材料（２～３人分）

米	２合	
しめじ	１／２袋	
エリンギ	１／２本	
しいたけ	２～３個	
だし汁	小さじ１	A
酒	大さじ１	A
しょう油	大さじ２	A
みりん	大さじ１	A
砂糖	小さじ２	A

① 

３種類のきのこの石づきを取り、エリンギは適当な大きさに裂き、しいたけは適当な大きさに切る。

② 

研いだ米、水、そして調味料Ａを炊飯器に入れさっと混ぜ、上にきのこをのせて炊く。

③

炊き上がったら、しばらく蒸らし、かき混ぜて完成。

はみだしすてーじ

試験を受けている……夢を見た。起きたら終わってた……。
⇒私なんか単位落とした夢見たらほんとに落としてましたよ……留　年　確　定　。

（法・３　影法師）
（前期取った単位は１桁でした；編）